

山代温泉
加賀温泉郷



山代温泉観光協会

〒922-0243 石川県加賀市山代温泉北部3丁目70番地

TEL 0761-77-1144(代) FAX 0761-77-2109



山代温泉
中期ビジョン計画
2023-2030





背景

山代温泉観光協会は、1996年（平成8年）に実施した「開湯1300年祭」以来、5~7年毎にビジョン策定を行い、地域一体となって取組みを推進してきました。中核的な観光施設である「はづちを楽堂」「九谷焼窯跡展示館」「魯山人寓居跡いろは草庵」が完成した2003年（平成15年）には「新山代CI」を策定、「総湯」「古総湯」「湯の曲輪と九谷広場」が完成した2010年（平成22年）には「山代温泉第2CI」を策定し、その魅力を発信してきました。

そして、前「中期ビジョン計画2016>>2022」では、中心商店街の活性化、KKR跡地の活用、人材育成、各種誘客事業などが示され、これに基づき、温泉通り・女生水商店街の景観まちづくりや、（仮称）萬松園公園整備事業、「あいうえおの郷」構想などが進められています。さらに、2023年度末には待望の北陸新幹線敦賀延伸・加賀温泉駅開業により山代温泉へのアクセスが飛躍的に改善される予定であり、また、コロナ禍を通してマイクロツーリズム、ワーケーション、まち歩き、アウトドアなど、観光トレンドも変化しており、受け入れ側のさらなる工夫と磨き上げが求められています。

今般の中期ビジョン計画の改訂に当たっては、改めて山代温泉の地域資源を見つめ直すとともに、過去20年の間に生み出された施設や進められてきたプロモーション等の取組みを見直し、それらを活かしつつより価値のあるものへ進化させるための計画を策定します。

山代ならではの価値を見つめなおし、磨きなおし、魅力をつける

これは山代温泉の観光まちづくりのコンセプトです。地元住民、各種団体、観光施設、宿泊施設、店舗などの共通認識となることを目指します。

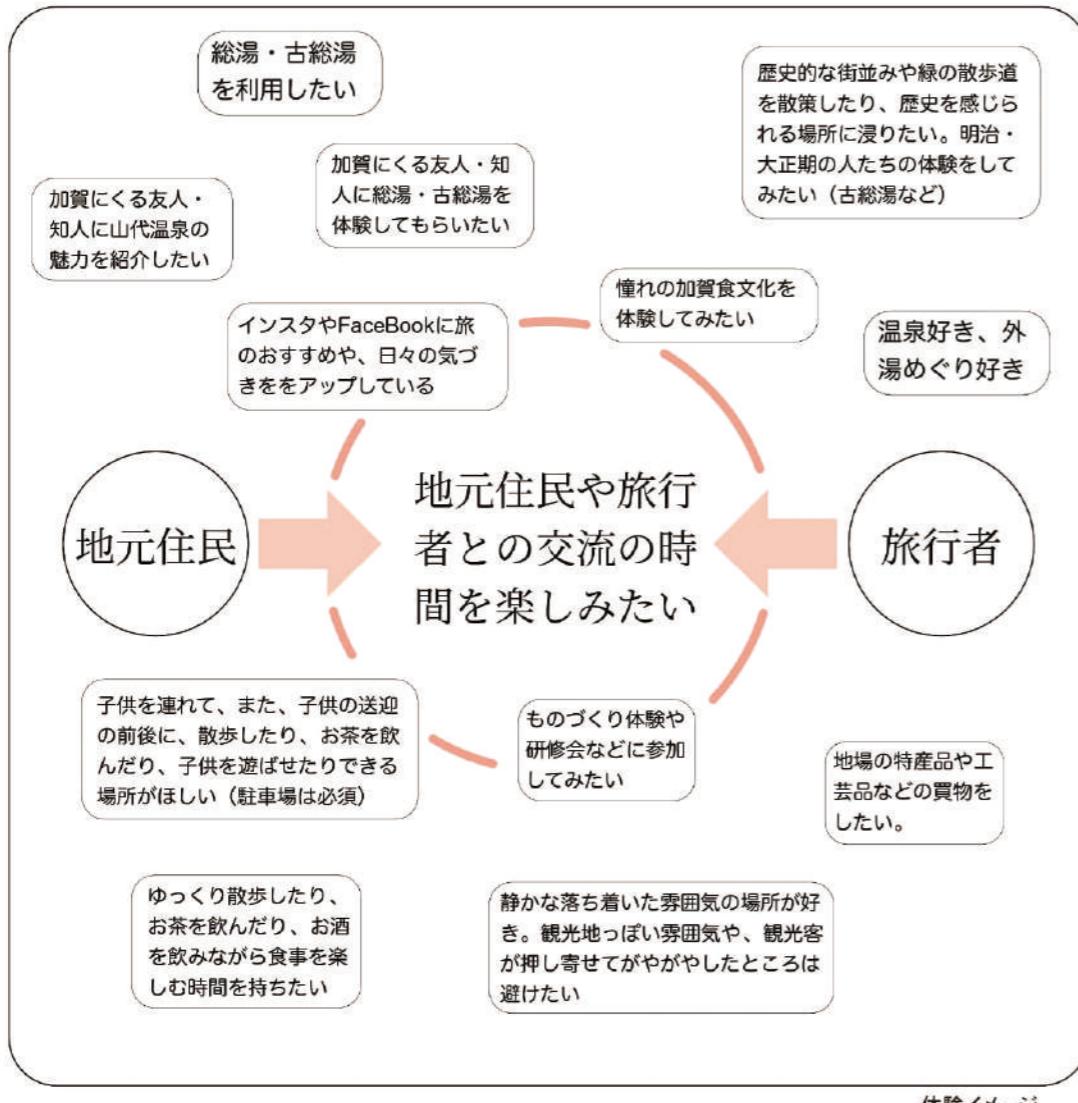
行基による温泉発見から1300年。古代から絶えることなく湧き続ける温泉の上に豊かな地域資源が生み出されてきました。それらは、明覚上人、豊田伝右衛門、北大路魯山人などの時の偉人の功績であり、白山五院で唯一残る薬王院温泉寺や、服部神社、萬松園などの史跡の集積であり、上質な温泉旅館群と加賀食文化であり、伝統的な湯治場の街区構成を日本で唯一今に引き継ぐ湯の曲輪の街並みであり、そして、菖蒲湯祭りなどの祭りやイベントを担う地元民の活力や脈々と引き継がれてきたおもてなしの精神です。2023年からの7年間をとおして、「あいうえおの郷」構想のさらなる具現化を目指すと共に、多岐にわたる恩恵をもたらしてきた温泉への感謝の念を忘れず、山代ならではの地域資源の価値を見つめなおし、磨きなおし、お客様に分かりやすくお伝えすることにより、お客様が目指して来たくなる魅力のあるまちづくりに地元住民・事業者を含めたオール山代で取り組みます。





顧客イメージ（ターゲット層）は、個々の店舗、宿泊施設、観光施設等（以下「店舗等」という。）によって異なりますが、本中期ビジョン計画において山代温泉が狙う代表的な顧客の体験イメージを共有することにより、個々の店舗等において同顧客層の受け入れも視野に入れた商品、サービスの提供をしていただくことを目指します。

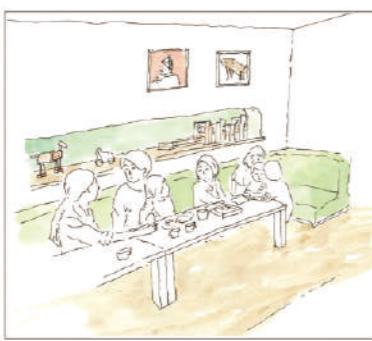
これにより、山代温泉一体として、目標とする提供価値や雰囲気の醸成を目指します。



体験イメージ



明覚上人供養塔堂



子供と過ごせるカフェ（イメージ）



九谷焼絵付体験（イメージ）

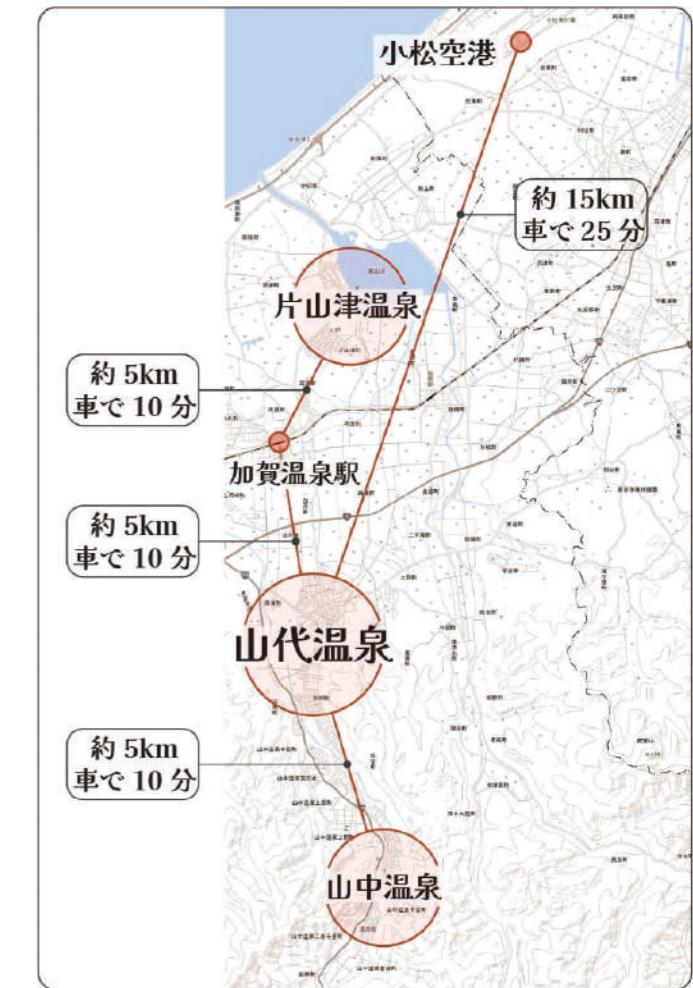


1. 交通アクセス

①公共交通システムの改善

下記の山代温泉周辺の公共交通システムの利便性の向上を図るため、加賀市、北鉄加賀温泉バス（路線バス）、株式会社まちづくり加賀（加賀周遊バス「CANBUS」）などの関係者との検討・協議を進める。この際、何より顧客ニーズに基づく利便性の高いルート・時間・料金などの設定を実現させることが肝要である。

- ・2023年度末の北陸新幹線敦賀延伸までに、JR 加賀温泉駅—山代温泉区間のバス路線増便など、JR 加賀温泉駅との公共交通機関アクセスの向上を図る。
- ・小松空港—山代温泉（直通。乗り換えなし。）の公共交通機関アクセスを実現する。
- ・加賀市内の主要温泉地や観光地を巡る公共交通機関（加賀周遊バス CANBUS）の利便性の向上を図る。



加賀溫泉広域図

②その他の交通機関・サービス

- ・MaaS の積極的な利活用を進め、山代温泉の2次交通の利便性の向上を図る。
- ・富裕層観光やインバウンド向けに、「観光グランキャブ（第一交通）」の活用を促す。
- ・地域の環境に配慮し、温モビとアシスト自転車の活用を促す。また、アシスト自転車については複数のサイクルポートを設置し、どこでも借りられどこでも返せるサービスの導入なども検討する。
- ・小荷物預かり・配送システムの導入について検討する。
- ・イベント等におけるトukトukの活用を促す。



2. 飲食・買物・宿泊

①まちの飲食店との連携

山代温泉街は、加賀市の中でも最も飲食店（バー、スナックを含む。）の店舗数が多く、かつ、料理やサービスの質も高いと評判である。旅行者にとって「食べ歩き、飲み歩き」が山代温泉の楽しみ方の一つとなるよう、宿泊施設のプランと飲食店との情報共有や泊・飲・食連携、各種媒体における飲食店の宣伝強化を図り、山代の強みである「飲食」の機会の多様化を図る。
（→8. プロモーション）

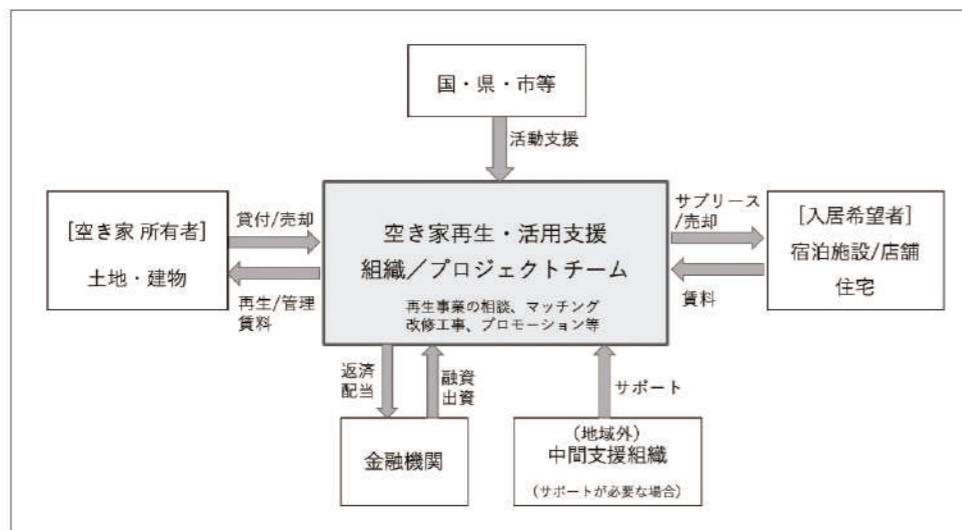
②はづちを楽堂の活用

2003年（平成15年）に整備されたはづちを楽堂は、NPO法人はづちによる運営の下、約20年にわたり湯の曲輪を訪れる旅行者の飲食需要や買い物需要の受け皿としての役割を担ってきた。引き続き、湯の曲輪に面した最も旅行者の集積が見込める立地性をいかし、住民・旅行者にとって居心地のよい「居場所」としての役割・機能のさらなる向上と湯の曲輪、古総湯と一体となった賑わいづくりのできる施設を目指し協力・連携を深める。

③空き家の再生・活用

空き家・空き店舗の再生活用に向け、観光協会が国・県・市の各種支援制度（宿泊施設再生事業支援、起業支援、店舗立地支援、商品開発支援等）の情報収集と地権者への共有、補助申請書類の準備やマッチングのサポート支援を行うことによって、空き家再生事業を促進させる。なお、湯の曲輪周辺にある旧旅館敷地については、空き家・空き地であることで地域にかける負荷が極めて大きいことから、早期の再生が求められる。

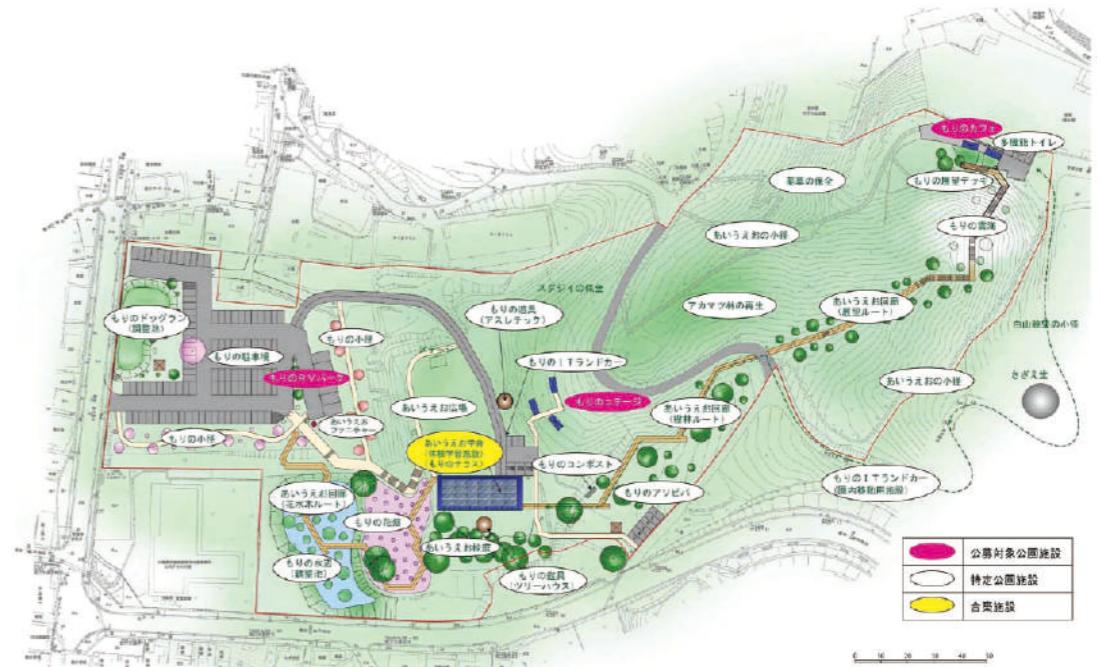
将来的には、一企業だけの再生事業には限界があるため、空き家再生・活用事業の運営の核となる組織またはプロジェクトチームを組成し、空き家所有者が貸しやすく、かつ、起業希望者や入居希望者が借りやすいシステムを検討する。



3. 景観・散策

①萬松園公園整備事業

古くから山代温泉街の背後の里山として親しまれてきた薬師山「萬松園」を再生するため、NPO法人萬松園ネットワークが中心となり「自然や歴史文化に根ざした地元住民と観光客がつながる開かれた公園」を整備予定である。下表のとおり、公園内を「あ・い・う・え・お」のテーマごとに5つのゾーンに分け、各テーマに基づく体験施設が計画されている。再生後の萬松園をより多くの旅行者や地元住民に楽しんでいただくため、同NPOと連携・協力し、運営サポートや公園の魅力の発信に努める。



テーマ	方針	内容
あ 【もりの子育て】	子どもたちの木育	里山の自然環境で学び・遊びのプログラムにより、地域の教育・文化活動活動の場を創造する。 ・あいうえおギャラリー等の「体験学習施設」 ・自然の中で遊び学ぶ「もりのアソビバ」など
い 【もりのにぎわい】	地元住民と観光客の交流	里山の恵みを活かしたサービス、商品等の提供による新しい観光拠点を創造する。 ・薬膳・薬茶等を提供する「もりのカフェ」 ・チャレンジショップ形式の「もりのテラス」 ・コンパクトな宿泊施設「もりのコテージ」 ・アウトドア顧客向けの「もりのRVパーク」など
う 【もりのオアシス】	魅せる里山空間の演出	樹林や地形を生かした演出を施し憩いや散策が楽しめる里山空間を創造する。 ・樹林を眺める「もりの展望デッキ」 ・人口霧による「もりの雲海」など
え 【もりのSDGs】	里山環境の保全	自生する樹木や草花を生産・保全する活動を支援し、次世代に受け継ぐ仕組みを創造する。 ・あかまつ林の再生 ・葦草の保全 ・国内の枯れ葉を集めめる「一人一里山エコ活動」など
お 【もりのいがたい】	誰もが訪れる里山公園	地域住民や観光客がふらっと来園し、気軽に憩い、楽しみ、親しみのある公園空間を創造する。 ・もりの小径、もりの花壇 ・もりのドッグラン ・あいうえおファニチャーなど

→P.15 (仮称) 萬松園公園整備事業 公募設置等計画概要参照



② 温泉通り・女生水商店街の景観まちづくり

温泉通り・女生水商店街における各種景観対策を行い、湯の曲輪と調和するまち並みづくり、気持ちの良いまち歩きができる空間づくりに取り組む。

- ・電線を地中化する。
- ・通りの景観のあり方について地域で議論する。この際、アクセントとしてベンガラ格子を取り入れた外観修景など、街なみの「山代らしさ」のあり方についても検討する。この議論を踏まえ街なみ協定を作成・締結し、修景支援制度に紐づける。
- ・街なみ協定に基づき、店舗外観改修、外構・植栽の整備、看板の付け替え、照明設置（ライトアップ）などの民間修景整備を促進させる。
- ・街なみ協定に基づき、歩道の確保、歩・車道の段差解消、美装化、街路灯建替え、街路樹等の緑の整備、道標・案内板設置などの道路修景整備を行う。

また、上記の景観まちづくりの進捗・学びを踏まえ、あけぼの通りをはじめとする他の商店街の景観まちづくりについても検討する。



景観検討の一例（温泉通り商店街無電柱化）



回遊性の検討



③ 湯の曲輪周辺の景観まちづくり

湯の曲輪については、2010年（平成22年）に総湯、古総湯及び広場の美装化等の再整備が行われた。しかしそれから13年が経過し、源泉足湯の老朽化や、空き家、空き地、駐車スペースの増加などの問題を抱えている。湯の曲輪は山代温泉街のまち歩きの要であり、常日頃からの景観チェックが欠かせない。これらの景観阻害要因に対処し、山代温泉のシンボルとしての美しい空間を守り育てる。

- ・空き家対策（→②③空き家の再生・活用）
- ・源泉足湯の各種景観課題を解決する。
 - 老朽施設設備のリニューアル、サインの付け替え・統一化、植栽管理、フェイク竹垣の撤去、昔の配湯櫓を見せる工夫、張り札・注意書き・ラミネート案内資料等の撤去又は統一サイン化、清掃体制の見直しなど
 - 駐車スペースへの目隠し（植栽、木塀等）等について検討する。
 - 老朽化したサインや案内板を撤去し、統一デザインのものへ付け替える。



外観修景の一例（足湯）



外観修景の一例（足湯）



外観修景の一例



駐車場外観修景の一例



駐車場外観修景の一例



外観修景の一例（はづちを楽堂）

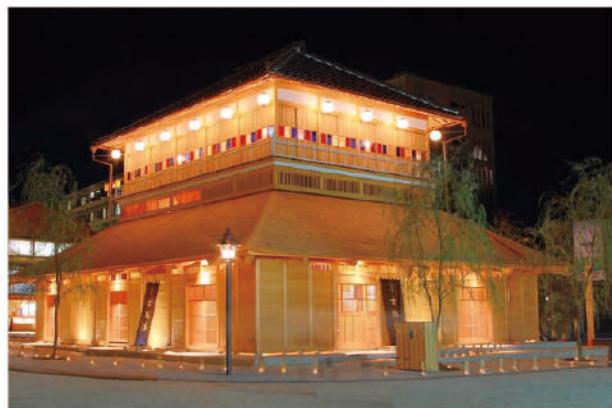


4. 総湯・古総湯

① 総湯・古総湯の魅力向上に向けた協力

13年前に整備された総湯と古総湯は、山代温泉文化の象徴として旅行者と地元住民に愛されてきた。明治19年築の総湯を復元した古総湯は、無垢の自然木の経年変化とともに益々味わい深い風情と品格を感じさせる存在となり、かつての入浴心得を再現した「体験型温泉博物館」として人気である。一方、総湯は、加賀地方の伝統的な農家建築を模した落ち着きのある建築物で、日々、地元住民の癒しの場、交流の場として活用されている。引き続き2つの総湯が旅行者・住民に支持され続けることができるよう一層の魅力向上に向けた連携・協力を図る。

- ・古総湯のサービスの質の向上、運営の効率化、プロモーションの見直しなどのサポート（→8. プロモーション）
- ・古総湯2階休憩所の活用方策の検討サポート
入浴しないお客様も利用できる仕組み、休憩所における飲食サービス、民謡等の音響設備、1階壁面の歴史案内板の再掲、温泉コンセルジュや歴史ガイドの配置、休憩所の各種イベント活用など
- ・総湯のサービスの質の向上、運営の効率化、プロモーションの見直しなどのサポート（→8. プロモーション）



古総湯



総湯

② 移住の促進

観光従事者の山代温泉への移住促進を図る。

- ・空き家対策（→2.③空き家の再生・活用）
- ・山代移住に関心を持ってもらうための取組みとして、移住体験施設の整備、移住体験ツアーの企画、移住に関する様々な疑問に答えるホームページ等の情報発信体制づくり、市の定住支援制度との連携などを図る。（→8. プロモーション）

5. 明覚上人とあいうえお

日本語の発展に貢献した明覚上人の功績を現代の旅行者の学びへ活かすイベントや、「あいうえおの郷」としての各種取組みを進め、旅行者の山代体験の幅を広げる。

- ・「明覚上人顕彰会」の学びの蓄積を伝える勉強会や、明覚上人が説き明かした半音作法を分かりやすく体験できるワークショップなど、明覚上人の探求の本質を伝えるイベントを開催する。
- ・「あいうえおの郷」としての取組みとして、あいうえおモニュメントやあいうえおベンチの設置、あいうえお商品開発、あいうえおショップ整備などを進める。
- ・住民に対し、明覚上人の功績に関する普及活動を進める。（→3 ①萬松園公園整備事業）

6. 九谷焼と魯山人

「山代温泉＝九谷焼」というイメージを抱き訪れる旅行者の期待に応えるため、観光協会が九谷焼関連施設（九谷焼窯跡展示館、魯山人寓居跡いろは草庵、九谷焼店舗、九谷焼体験施設等）の協力・連携強化のための橋渡しやサポートを行う。（→8. プロモーション）



あいうえおの郷 石碑



九谷焼窯跡展示館



魯山人寓居跡 いろは草庵

7. 祭り・イベント

山代温泉では、1000年の歴史と称される「菖蒲湯まつり」の伝統的な行事から、開湯1300年祭を機に始められた「山代大田楽」、湯の曲輪周辺の再整備を機に始められた「湯の曲輪ロマン」「がわ市」などのイベント、そして全国からの出店で賑わう「やましろアートマーケット」まで、多様な祭り、イベントが行われてきた。これらの祭り・イベントの歴史的な価値、今後の顧客ニーズ、運営体制なども踏まえ、より多くのお客様にお越しいただくためのサポート強化を図る。（→8. プロモーション）



- ・「菖蒲湯まつり」は山代が誇る伝統祭事であり、未来へ引き継がれるべき無形文化財といえる。温泉寺に集まった修験者が厄年にあたる若者の厄払いのために菖蒲を刈って俵に詰め無事息災を祈願したという由来や祭りの精神に立ち返り、旅行者にとってより魅力のある祭りとなるようサポートする。
- ・「山代大田楽」は1996年(平成8年)から山代のイベントの顔として開催されてきた祭りであるが、限られた予算の中で費用対効果が疑問視されている。一方、「湯入れ行列」は地元中学生の発表の場となっており、地元のお客様の増加など新たな変化も見られる。2023年開催予定の企画内容とその後の開催の方向性について検討を行う。
- ・「やましろアートマーケット」は2022年9月で10回目(10年目)を迎える、認知度の高まりとともに参加者(出店者)数も定着しつつある。地域の開催意志も強く、継続が望まれている。今後は、観光協会や旅館組合などの地域団体や他の商店街との連携体制をつくり、開催場所(出店の出る通り)の拡大、新規事業者の発掘、イベントサポート人員の確保、アート(芸術)的要素の効果的な導入、協賛金の呼びかけなどに取り組む。



菖蒲湯まつり



山代大田楽



やましろアートマーケット

8. プロモーション

① 情報発信の充実

山代温泉の様々な地域資源に関する情報発信の充実と、山代温泉を訪れる旅行者にとって分かりやすく回りやすい案内情報の確立に向け、山代温泉のプロモーション戦略全体の見直し、整理・統合を進める。併せて、生きた情報、顧客が求める情報が常時更新される体制づくりを行う。

- ・交通アクセスに関する各種情報（公共交通システム、その他の交通機関・サービス）
- ・まち歩きコース、まち歩き企画等のまち歩き情報・マップ
- ・宿泊施設、飲食店、物販店等の情報や泊食コラボレーション情報（はづちを楽堂に関する情報を含む）
- ・萬松園の情報
- ・湯の曲輪、古総湯・総湯等のまちの成り立ちや湯治文化等に関する情報
- ・薬王院温泉寺、服部神社、専光寺、春日神社、一ノ瀬神社、女生水・男生水等の寺社仏閣の情報
- ・明覚上人顕彰会や「あいうえおの郷構想」に関する情報
- ・魯山人寓居跡いのほ草庵、九谷焼窯跡展示館、九谷焼店舗等に関する情報
- ・菖蒲湯まつり、山代大田楽、やましろアートマーケット等の祭り・イベントに関する情報

【整理・統合・見直しの対象となる主な情報】



ア) 紙媒体の整理・統合

観光協会をはじめ様々な団体が制作した各種街歩きマップ、各種街歩き企画チラシ、広域連携ルート案内、その他パンフレットなどの紙媒体の整理・統合を図り、顧客にとってシンプルで分かり易い情報提供方法と、生きた情報が届く情報更新体制を構築する。これまで紙媒体の企画・制作・印刷に費やしてきた予算の比重を下記イ)のインターネット媒体の予算へ移行させる。

イ) インターネット媒体の整理

山代温泉観光関連のホームページ、インスタ、Twitter、FaceBookなどのインターネット媒体の整理・統合を図り、顧客にとってシンプルで分かり易い情報提供方法と、生きた情報が届く情報更新体制を構築するとともに、顧客が自ら山代の情報発信をしたくなる仕掛けをつくる。

ウ) ブランディング・デザインの統一化と共有

これまでの様々な山代温泉のキャッチコピー、タグライン、ロゴデザインなどを踏まえ、山代温泉全体のブランディングの見直しを行うとともに、紙媒体、インターネット媒体、各観光施設の案内・サイン等におけるデザインや世界観の調和・統一化を目指す。

エ) プロモーション推進体制

情報を常時更新する専属スタッフや、情報媒体が煩雑化しないよう交通整理する専属スタッフの配置など、プロモーションチームの体制づくりを行う。

② インバウンドプロモーションの推進

山代温泉におけるインバウンド旅行者はこれまでアジア圏（台湾、韓国等）が中心であったが、今後は欧米や豪州等の地域からの旅行者の拡大も視野に、ターゲット層（国・地域別、世代別、旅行目的別など）のニーズ調査を実施する。さらに、ターゲット層のニーズに合わせたコンテンツの磨き上げ、ターゲット層への各種情報発信の充実（インターネット媒体の多言語対応を含む）、サービス人材の確保・育成、山代滞在中の食事、買物、まち歩き等の環境整備（wifi環境、キャッシュレス等）を進める。

③ 情報収集による戦略分析

加賀市、地域関連団体、旅館、店舗等と連携・協力して、地域の宿泊データや店舗の売上データを共有し分析するシステムを構築し、これを元に旅館や店舗が需要予測、宿泊プランづくり、商品開発等にいかせるような仕組みについて検討する。



最重要となる「5つの基本行動」

「強み」・「弱み」ともに強化することが重要です！

	強み・地域資源	課題・弱み
行く・帰る 交通アクセス 駐車場	  <ul style="list-style-type: none"> 2023年度末、新幹線延伸により「加賀温泉駅」が誕生する予定 かつて山代東口・西口と2箇所の鉄道駅があり、地方の温泉地としては好アクセスの立地 小松空港～山代温泉の公共交通機関アクセス開設 グランキャブ、エコ乗物の活用 地元民が使える駐車場が少ない、遠い 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀温泉駅～山代温泉の公共交通機関によるアクセスが悪く不便 バス路線増便など、公共交通機関アクセスの向上 ・小松空港～山代温泉の公共交通機関アクセス開設 ・グランキャブ、エコ乗物の活用 ・地元民が使える駐車場が少ない、遠い
食べる・飲む 飲食店・旅館等	 <ul style="list-style-type: none"> 豊かな加賀食文化の発達（茶の湯由来の懐石料理、鴨料理、橋立漁港と蟹料理、清酒、梨、葡萄など・・・） 質の高い飲食店が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化。後継者・若い担い手の減少 起業支援、誘致 はづちを楽堂のさらなる活用 空き家、空き店舗の再生活用 質の高い外食産業を活かす まち中の飲食店と宿泊施設の連携
買う 嗜好品・工芸品 土産物等	 <ul style="list-style-type: none"> 旅行者の商店街（あけぼの通り等）と住民の商店街（温泉通り等）を中心とした商店街隆盛の歴史がある 九谷焼の店舗 和菓子店（多様な種類と味の老舗店が頑張って残っている） 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化。後継者・若い担い手の減少 起業支援 はづちを楽堂のさらなる活用 空き家、空き店舗の再生活用 店主がお客様に店の由来や商品の説明をするイベントなど、店による主体的な挑戦・発信 山代=九谷焼（購入）と捉えてくる顧客の満足度はそれほど高くない
泊まる 旅館・ホテル等	 <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代、前田家の藩湯や市之瀬用水が整備され、まちの発展の礎となる 古くから総湯を囲む湯持ちの宿が集積し、湯宿が土地に定着した歴史がある 旅館、店舗等に残る魯山人の作品・足跡 加賀温泉郷のなかでも旅館の質が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 空き旅館の再生活用。特に旧西鶴苑と旧大のやの建物・敷地の再生活用 素泊まり宿を含めた多様な宿泊施設誘致・支援
歩く・散歩する 景観・まち並み	 <ul style="list-style-type: none"> 総湯を四角く「湯宿群」が取り囲む、伝統的な湯治場の街区構成を、日本で唯一今に引き継ぐ 泉鏡花など文化人に愛された湯の曲輪の温泉情緒 H21-22総湯、古総湯再生と街路空間の再定義 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉通り、女生水商店街の各種道路修景整備+景観まちづくり（民間修景整備） あけぼの通りなどの景観対策（最低1kmの気持ちの良い街並みの形成） 萬松園パークPFI事業による自然散策路の整備 湯の曲輪の歴史的価値を踏まえた、さらなる景観対策（特に足湯、駐車場、空き店舗、空き旅館、緑、はづちを楽堂）、サイン計画



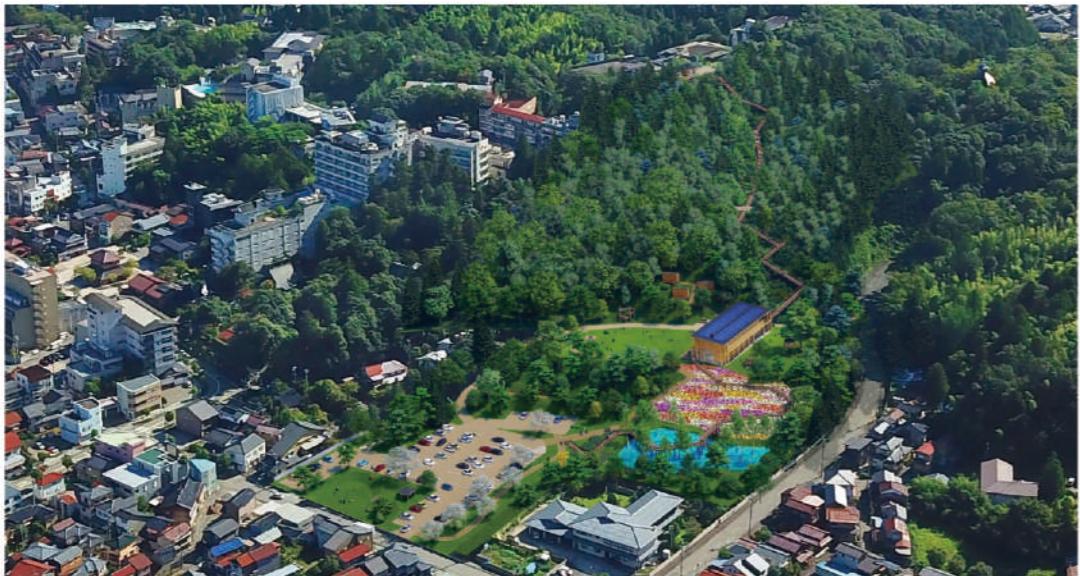
地域資源を強化する「7つの選択行動」

「強み」の強化に特に注力する！

	強み・地域資源	課題・弱み
休息/癒し 温泉・森林浴 エステ・サウナ 海水浴等	 <ul style="list-style-type: none"> 山代温泉・湯の曲輪の最も大切な存在であり、シンボルである広場中央の総湯が「古総湯」として今に引き継がれている 総湯は住民の日々の生活の一部であり続けている H21-22総湯、古総湯再生により共同湯が2つに 古総湯は時間の経過とともに落ち着き味わい深くなった。外観4面の周囲に余計なものがなく、すばらしい景観を形成 	<ul style="list-style-type: none"> 総湯、古総湯の経営改善のため法人枠拡大などの取組み 観光客向けの総湯PR 湯の曲輪付近に居住者が増える取組み・支援 源泉足湯の景観面、機能面の改善 萬松園パークPFI事業
寺社仏閣 参拝・歴史建造物 庭園などの見学	 <ul style="list-style-type: none"> 行基による山代温泉発見・開湯 明覚上人が温泉寺を再興。悉曇学を探求し日本語を五十音圖に図式化 温泉寺の五輪塔（明覚上人供養塔）、あいうえおの小径等 服部神社、専光寺、春日神社 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおの郷」としての各種取組み 明覚上人の功績、日本語の発展に貢献した「あいうえお（五十音圖）」の価値、明覚上人顕彰会の学びの蓄積等を体験できる場 温泉寺、服部神社、春日神社、専光寺の歴史・特性を知ろうとさせるPR戦略
文化施設・遊戯 娯楽施設 美術館・博物館 資料館・音楽堂 遊園地など	 <ul style="list-style-type: none"> 魯山人が滞在し、宿の主人達と交流し、創作活動に没頭した歴史 魯山人寓居跡「いろは草庵」 旅館、店舗などに残る魯山人の作品や足跡 豊田伝右衛門による古九谷復活の吉田屋窯「九谷焼窯跡展示館」 	<ul style="list-style-type: none"> 山代=九谷というイメージを抱き訪れる旅行者の期待に応えられる九谷焼・豊田伝右衛門のコンテンツのあり方を見直す（窯跡展示館、九谷焼店舗、九谷焼体験の連携を含む）
スポーツ 観戦	 <ul style="list-style-type: none"> サイクリング、ゴルフ、ハイキング、海水浴など 	<ul style="list-style-type: none"> 萬松園Park-PFI事業による自然散策路の整備 レンタサイクルの活用
祭り・イベント 伝統的な祭り・イベント 各店舗/組織の企画イベント	 <ul style="list-style-type: none"> かつてダンスホール、キャバレーで賑わった歴史がある 今に引き継がれる菖蒲湯まつりの伝統と賑わい 山代大田楽、アートマーケット、蟹まつり、各種ライトアップ事業など 	<ul style="list-style-type: none"> 本来の「目的」「意義」など、それぞれの個性を際立たせ、より魅力的な時間を創るために工夫 費用対効果の検証
体験・学び 陶芸・絵付け 勉強会・研修会 料理教室など	 <ul style="list-style-type: none"> 九谷焼体験（窯跡展示館、CoCo） 明覚上人顕彰会（20年の歴史がある） 今年のほんごコンテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 明覚上人顕彰会の学びを旅行者へ伝える強会などのイベント 文化施設の項目参照
地域貢献 空き家 再生など	 <ul style="list-style-type: none"> 松籟荘跡地の有効活用「やましろスマートパーク」 	<ul style="list-style-type: none"> 空き旅館の再生活用 SDGsに関連したプログラム



(仮称) 萬松園公園整備事業 公募設置等計画 (完成イメージ)



加賀市ホームページより

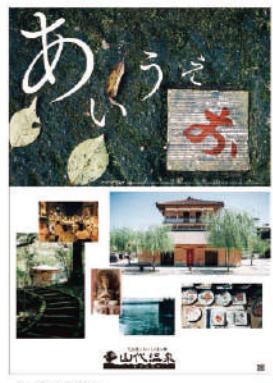


キャッチフレーズ等の変遷

- 2025(平成 35) 大阪万博開催
2023(平成 33) 北陸新幹線(東京～敦賀)開通
- 2016(平成 26) 九谷焼とあいうえおの郷
2015(平成 25) 北陸新幹線(東京～金沢)開通
 - 2011(平成 23) 九谷焼と紅がら格子の湯のさと
いくぜ 山代純愛組 CRAZY for 湯～
 - 2007(平成 19) 九谷焼のふるさと
 - 2000(平成 12) いいお湯といいおもてなし 人にやさしい
千三百余年、名湯物語。
修行したのは、北大路魯山人。楽しんだのは、与謝野晶子。
心に刻んだのは、泉鏡花。癒されたのは、明智光秀。
 - 1998(平成 10) いいお湯といいおもてなし、開湯 1300 年。
 - 1997(平成 9) いいお湯といいおもてなし 人にやさしい 山代温泉
なかよしの湯 他 4 枚
山代って えへんね
いいお湯といいおもてなし 人にやさしい 山代温泉
にっぽんを 遊んでいます。
 - 1994(平成 6) いいお湯といいおもてなし 人にやさしい 山代温泉
開湯 1300 年祭
ずっと 人にやさしい 山代温泉
 - 1993(平成 5) 遊びわがまま、楽しさ気まま
あったかい、おもてなし。魯山人も愛した九谷の里
 - 1992(平成 4) 遊びわがまま、楽しさ気まま
上げ膳、据え膳 うれしいやましろ
 - 1985-91 バブル景気
 - 1981(昭和 56) 遊ばせ上手の山代温泉
楽しさを求めて 1300 年
おもしろやましろ
 - 1979(昭和 54) 遊ばせ上手の山代温泉
楽しさを求めて 1300 年
 - 1973(昭和 48) 湯女の深情け・北陸へいらっしゃい
日本の情緒が生きている
 - 1970(昭和 45) 大阪万博開催
 - 1964(昭和 39) 東海道新幹線開通
東京オリンピック開催



平成 23 年



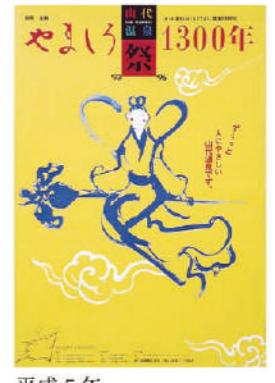
令和 2 年



平成 23 年



平成 12 年



平成 9 年



平成 5 年



昭和 58 年



平成 4 年



昭和 47 年



昭和 56 年



memo



memo